

第3回 浜名特別支援学校運営協議会 グループディスカッション 記録(Aグループ)

<グループ協議> 『SDGsの視点で地域とつながる教育活動について』

- A 委員:現在実施している取組について、みなさんから多くの案をいただきたい。
- F 委員:自社では、食堂の運営において、残飯を減らした。元々、食堂の担当が米飯を切らしてはいけないとの思いから、米飯が足りなくなることを無いうように調理をしていた。しかし、米飯が無ければ無しで麺を食べるであろうし、そこまでお米にこだわる必要はないと共通理解した。
- A 委員:確かに、コンビニやスーパーも夕方はスカスカである。
- F 委員:社員で花植えを始めた。製造現場で働いていたが、高齢となり交代勤務が厳しくなった社員の中に、花に詳しい方がおり、専門業者がやっていたことを従業員でやってみようと始まった。各部署のプランターを食堂前に並べ、お互いの部署の植栽を見比べている。リモートが増えた現在の勤務形態において、人とのつながり、コミュニケーション、効率化、改善等それぞれ善し悪しがあるかと思うが、「働き方改革」が言われている中でも、本当に大切なことがどこにあるのか、何なのか、を考える良い機会にもなっている。
- E 委員:清掃活動や環境活動はどうだろうか。「湖西ウォーキング」「カヤック体験」「湖西連峰登山」においてスペシャリストに依頼することも良い。人とのふれあいや、自然とのふれあいができる。また、新居小のみではなく、湖西市内の他の小学校とも是非交流をしてほしい。
- A 委員:県立移管前は実施していた。鷺津小や岡崎小なども交流していた。
- F 委員:低学年であれば、障害に対する考えや抵抗が少ないから、なるべく低学年の間に多くの関りをもつことは大事だと思う。
- A 委員:湖西では「花の会」がある。植えるのは土日のため、そこへの参加はハードルが高い。しかし、しおれた花を抜いたり、植えた後の水やりや肥料巻きはできるのではないか。「手伝いのおかげできれいな花が咲いた」という達成感や次回への意欲、地域とのつながりもできるのではないか。
- 高部主事:本校でも美化委員会が食堂前に花壇を作製した。歩いて行ける距離で、広い場所があれば、学部として関われる可能性がある。

副校長:地域貢献になる。

A 委員:社会に出るうえでとても大切である。人に喜んでもらうことが大事である。また、食育もSDGsにつながる。肉屋、パン屋といった地元のお店ともっとつながることができるのではないか。例えば豆腐屋で作り方を見て、味噌づくりと同じ原料だと気づくこともできると良い。給食と食材屋が切り離されているので、つなげていけたら良い。

E 委員:コロナが明けたので、以前に戻って地元(地域)の良さを知ることは良い。食につながることを子どもたちは大好きなので、地元のお店へ見学に行ったり、講師を呼んでお菓子作りをしたり、ある学校では味噌樽を作り、卒業前に配られるといった実践もある。

A 委員:月に一度の販売会はどうか。人数が少ないので難しいとは思いますが、ただ作るのではなく、売るために作るという意欲の向上が必要。関所回りのカフェに置いてもらうのも、つながりがあって良いのではないか。

副校長:高等部は人数が減っているので、できる範囲で考えていけると良い。

F 委員:減っている理由は何か。

高部主事:通信制の学校が増えてきたことや、分校ができることで、選択肢が増えてきているためである。

A 委員:浜北特支では、チラシを配って「お掃除に行きます」として、受注しているが、供給できるほどの人出が足りていない。学園の生徒たちは、天浜線の沿線上に花を植えるお手伝いをしている。学園と共同実施し、グラウンド整備や草取りをしたり、学校前に花畑を作ったりすると地域の方も見てくれるのではないか。公民館前や道路沿いでも良い。その他には、ヤマハララグビー部の方を講師に招いて、テレビや新聞に載ることで、講師や地域住民もやる気になるのではないか。